



# 知ろう、使おう！ 日本助産学会の ガイドライン

## 第3回

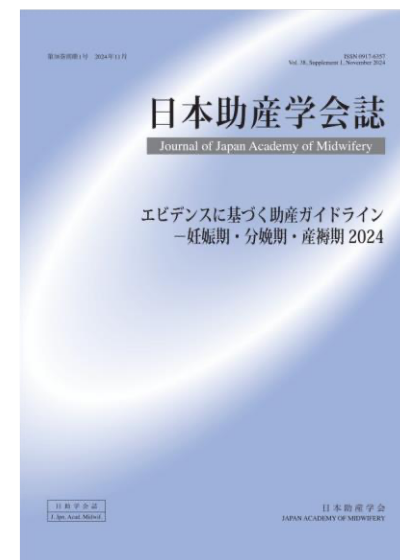
一般社団法人日本助産学会 ガイドライン委員会





# CQ208 分娩開始後に胎児の回旋異常（後方後頭位）から前方後頭位へ促すための四つ這いは推奨されるか？

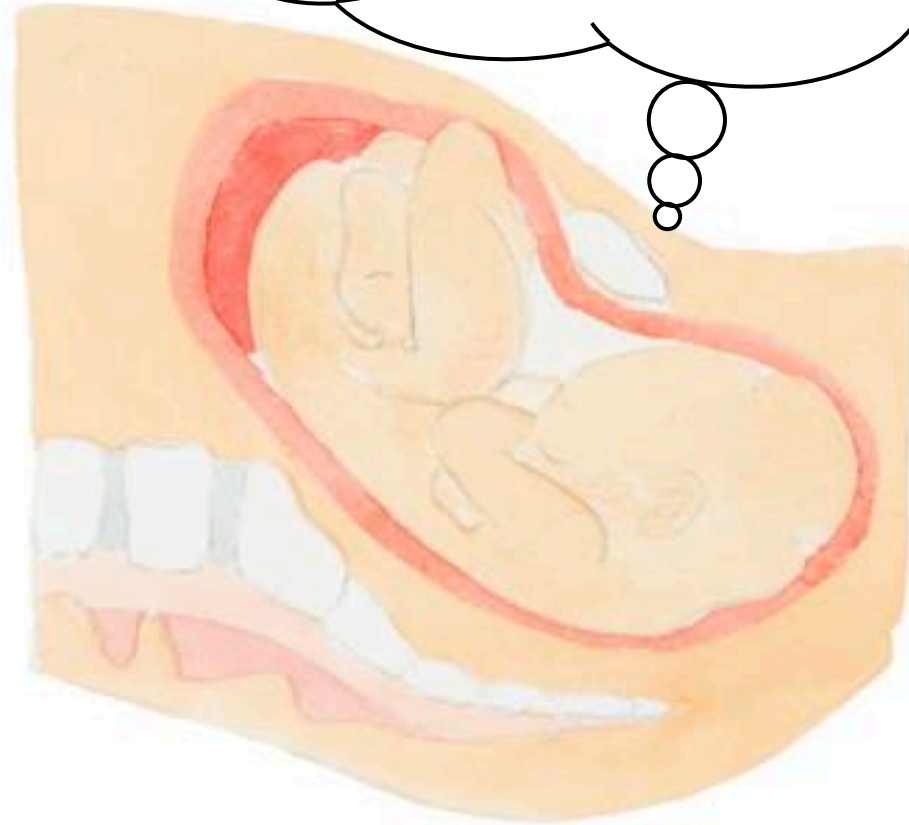
日本助産学会 ガイドライン委員会 委員  
神徳 備子（長崎大学）



# 後方後頭位



分娩の約15-32%で発生  
約5%は分娩時まで持続



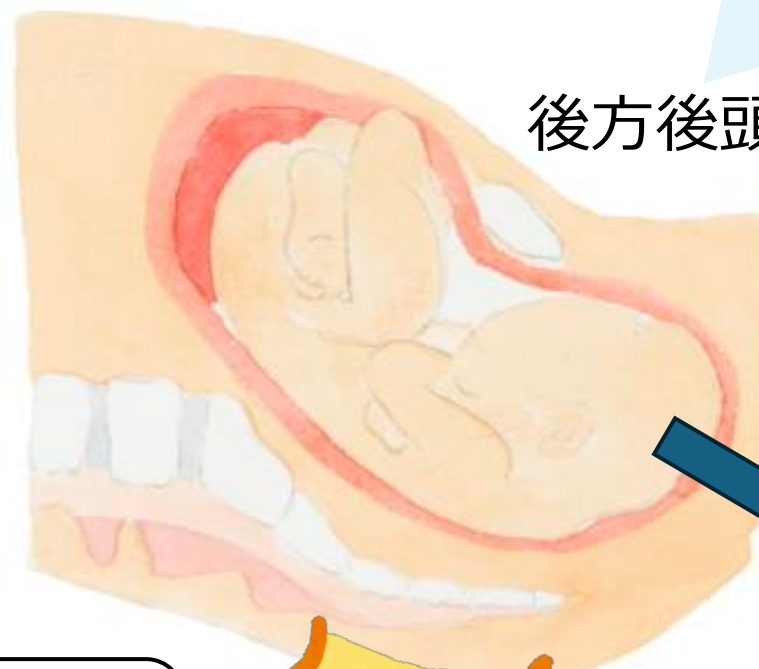
# 後方後頭位

分娩遷延・陣痛促進剤使用・  
吸引分娩・帝王切開のリスク↑

母体：強い腰痛・疲労・情緒的サポートの必要性↑  
児：Apgar低値・NICU入院などのリスク↑



前方後頭位



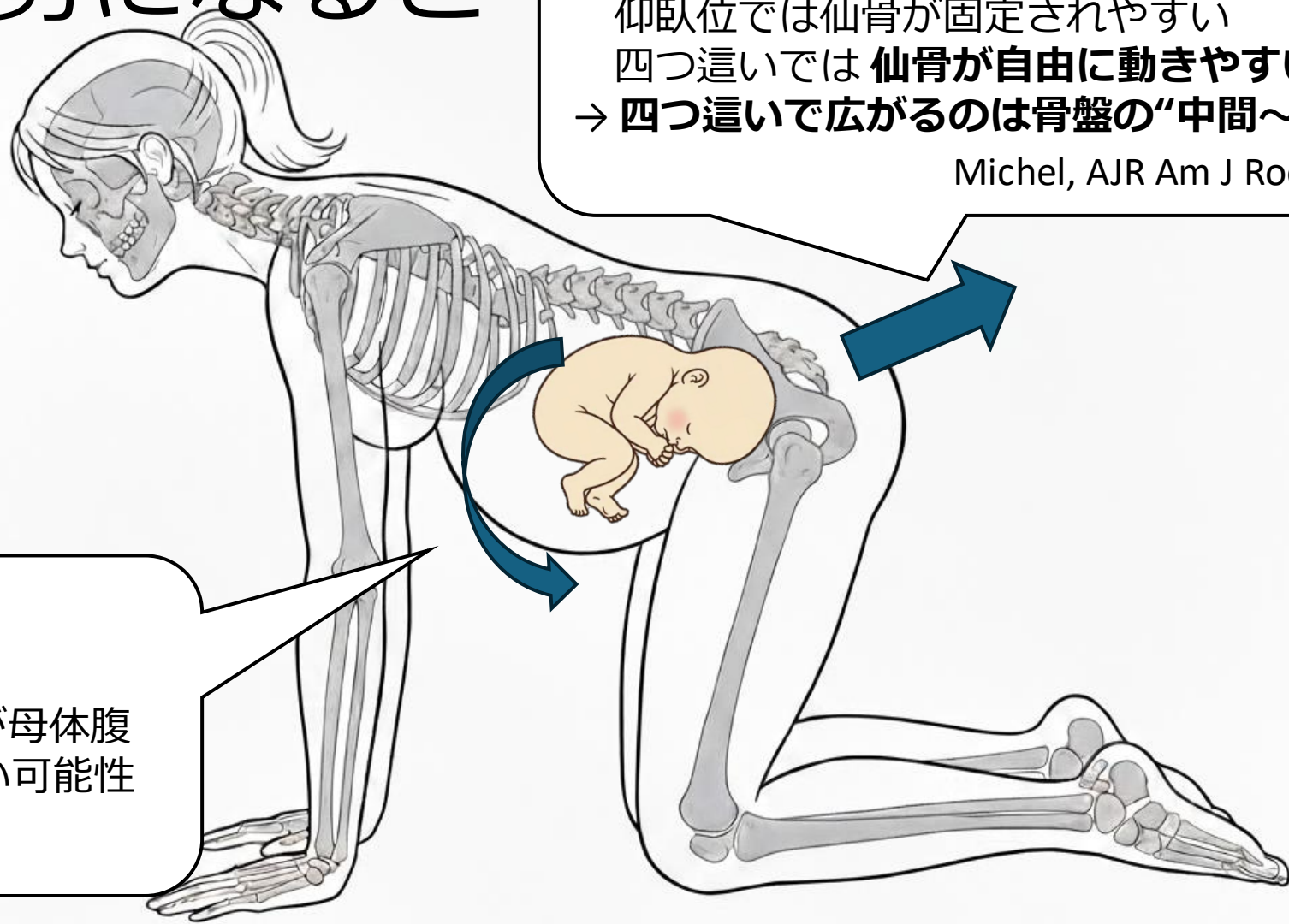
後方後頭位

児の後頭部が母体の背部を押しがちのため、  
腰部痛が強くなる

骨盤誘導線に沿った児の回旋・下降が起こりにくくなる

Akmal, *Ultrasound Obstet Gynecol*, 2004; Gimovsky, *Am J Obstet Gynecol MFM*, 2021  
Gardberg, *Obstet Gynecol*, 1998 ; Ponkey, *Obstet Gynecol*, 2003  
Simkin, *Birth*, 2010; Cheng, *Obstet Gynecol*, 2006

# 四つ這い姿勢になると



回旋するスペースが広がる可能性

・骨盤・仙骨の可動性の増加

仰臥位では仙骨が固定されやすい

四つ這いでは仙骨が自由に動きやすい

→ 四つ這いで広がるのは骨盤の“中間～出口”

Michel, AJR Am J Roentgenol, 2002

・重カベクトルの変化

→重心が変化し胎児背中が母体腹側（前方）に移動しやすい可能性

# 臨床での後方後頭位に対する四つ這い姿勢



非侵襲でコストがかからないため  
母体の姿勢介入は臨床で広く用いられている

では、実際のところ、四つ這いの効果はあるのか？



分娩期に後方後頭位と診断された女性が  
四つ這い姿勢をした場合と、しなかった場合に  
分娩転帰や母子のアウトカムはどうなるか？

# システマティックレビュー・メタアナリシス

(PRISMA2020に準拠)

**対象(P)** : 分娩第1期、単胎、後方後頭位の女性

**介入(I)** : 四つ這い姿勢

**対照(C)** : その他の姿勢

**結果(O)** : 次のスライド

**研究デザイン(S)** : ランダム化比較試験 (RCT)

MEDLINE (via PubMed), CENTRAL, 医中誌Web

※どんな式で検索したか? : 「エビデンスに基づく助産ガイドラインー妊娠期・分娩期・産褥期2024」 p.121を見てみてください

# どのような結果（アウトカム）か

## 主要アウトカム「分娩時の前方後頭位率」

### 副次アウトカム

- 介入1時間後の前方後頭位率
- 生後5分のアプガースコア 7点未満
- 分娩所要時間
- 母体姿勢の快適さ
- 帝王切開・鉗子/吸引分娩
- III度/IV度会陰裂傷
- 腰痛

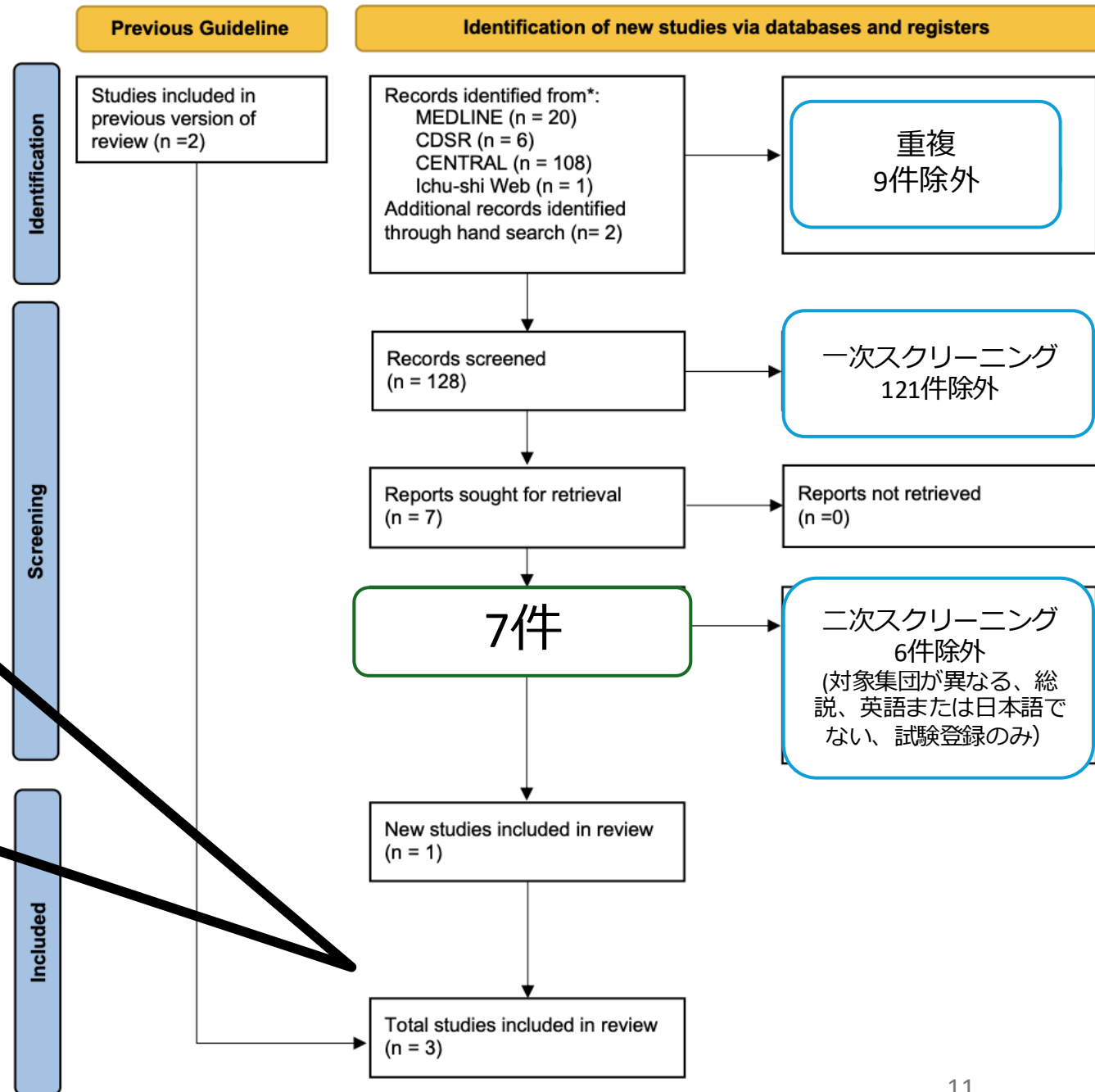
- 解析：RevMan Web
- 各RCTの方法の質を評価：Risk of Bias 1.0
- アウトカム毎のエビデンスの確実性評価：GRADE (Grading of Recommendations, Assessment, Development and Evaluation)

# 対象研究

## 3件の研究

Bahmaei 2023 (イラン)  
Guittier 2016 (スイス)  
Stremmler 2005 (多国籍)

計766名の産婦



# 3つの研究

研究	対象者数	産科歴	後方後頭位の診断方法	介入内容(姿勢)	実施時間・頻度	医療者のサポート	対照体位
Bahmaei 2023	180名 (45/45/90)	初産婦 (18-40歳)	助産師または経膈超音波	四つ這い + 骨盤の前後揺らし	1時間毎に15-30分保持 第2期も継続	腕の下に枕を置くなど快適性を高める調整	仰臥位(頭側30°挙上)を15-30分/h保持。
Guittier 2016	439名 (220/219)	初産婦 経産婦	超音波	助産師が示した6種類の四つ這いから1つ選択	少なくとも10分間保持 その後は継続 or 他の四つ這い姿勢へ変更可	助産師が姿勢をデモンストレーション、選択・保持方法を指導。脚の間に枕を入れる、腹部をクッションで支えるなどの快適性サポートも提案。	試験前の体位(立位・座位・半仰臥位・側臥位など)を継続。 四つ這いは禁止。
Stremmler 2005	147名 (70/77)	初産婦 経産婦	超音波	四つ這い	少なくとも30分(最大60分)の1セッション その後は本人の希望に任せる	助産師/看護師がビジュアル教材を用いて四つ這いの姿勢を支援、姿勢維持をサポート。	四つ這い・腹部懸垂以外は自由な体位。 積極的な姿勢指導は行わず。

# 各研究の方法の質 Risk of Bias

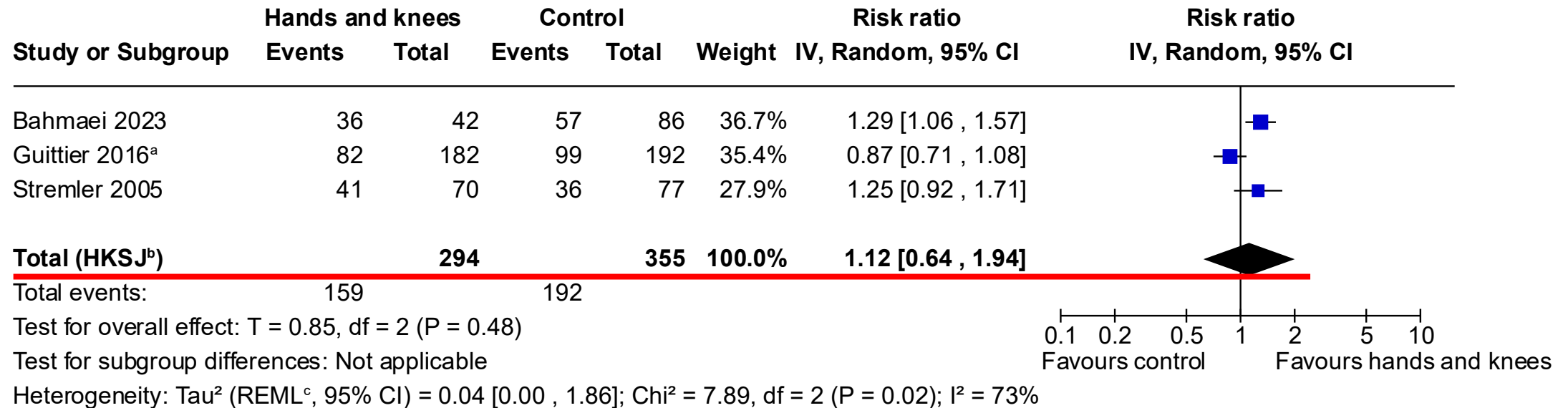
ランダム系列の生成  
 割り付けの隠蔽化  
 参加者と研究者のブラインド化  
 アウトカム評価者のブラインド化  
 不完全なアウトカムデータ  
 選択的報告  
 その他のバイアス

Bahmaei 2023

Guittier 2016

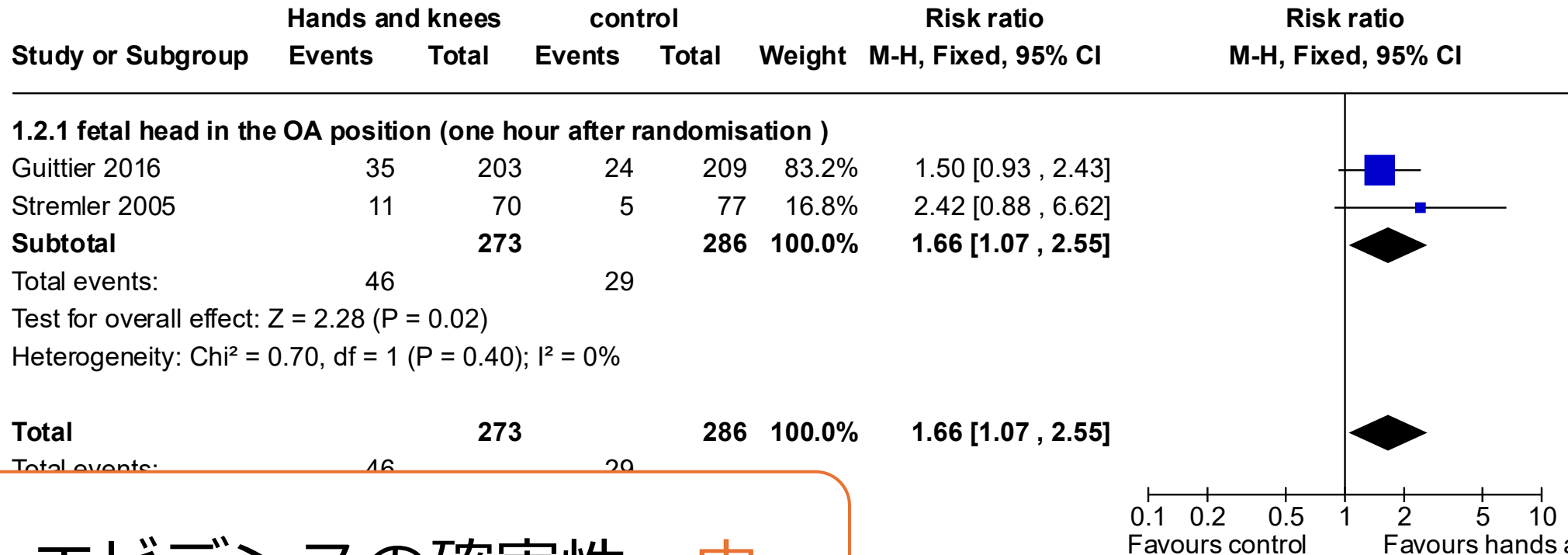
Stremler 2005


# 主要アウトカム 「分娩時の前方後頭位率」



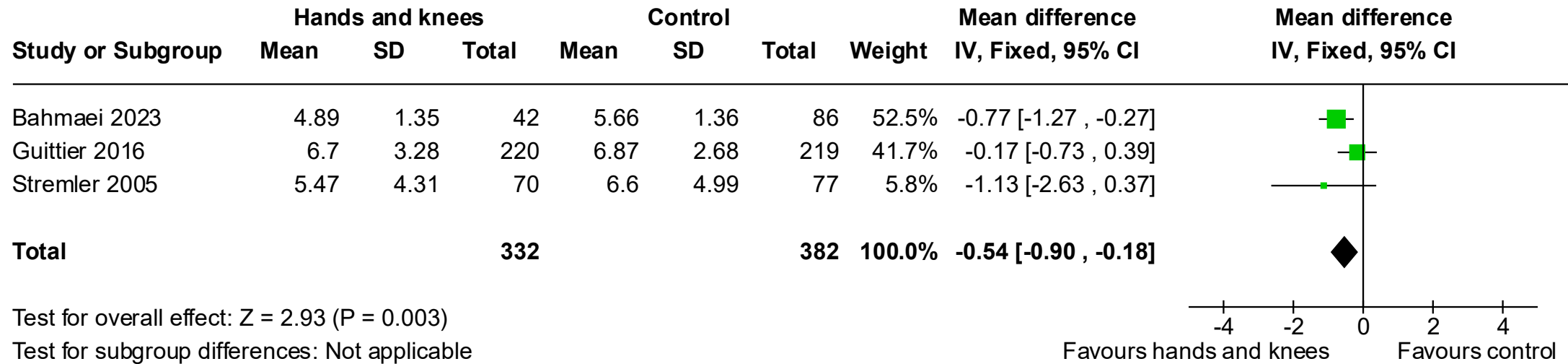
エビデンスの確実性：低

# 介入1時間後の前方後頭位率



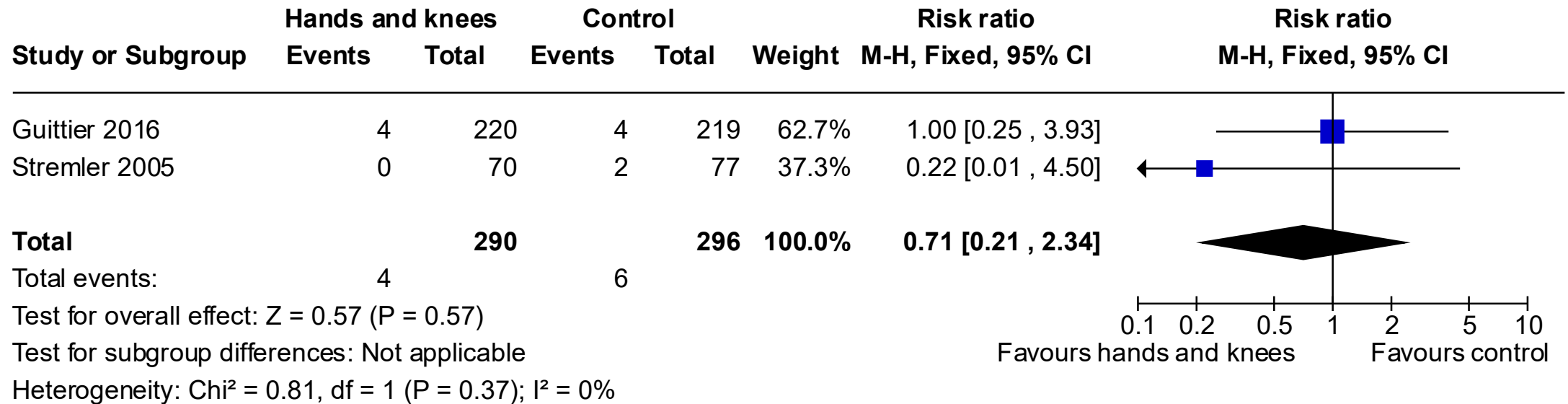
エビデンスの確実性：中

# 分娩所要時間



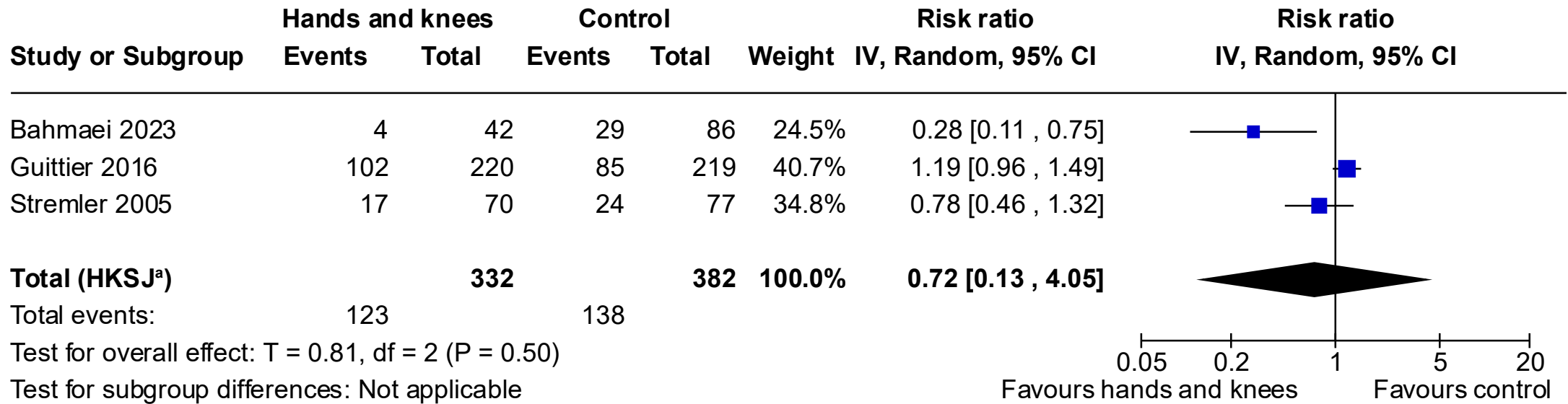
エビデンスの確実性：中

# 生後5分のアプガースコア7点未満



エビデンスの確実性：低

# 帝王切開・鉗子/吸引分娩



Hetero

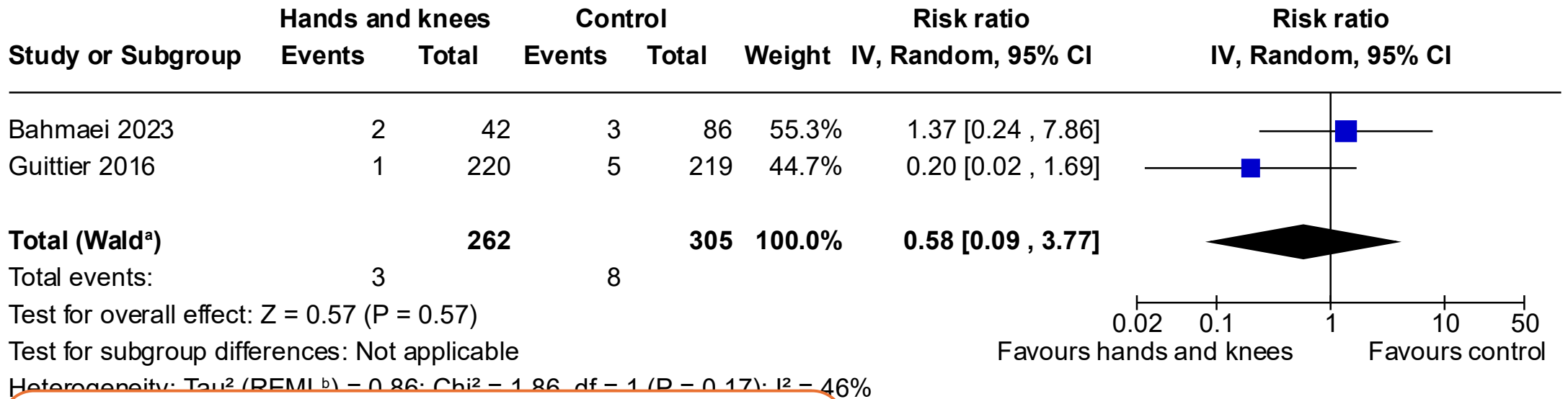
Foc

<sup>a</sup>CI

<sup>b</sup>Tau

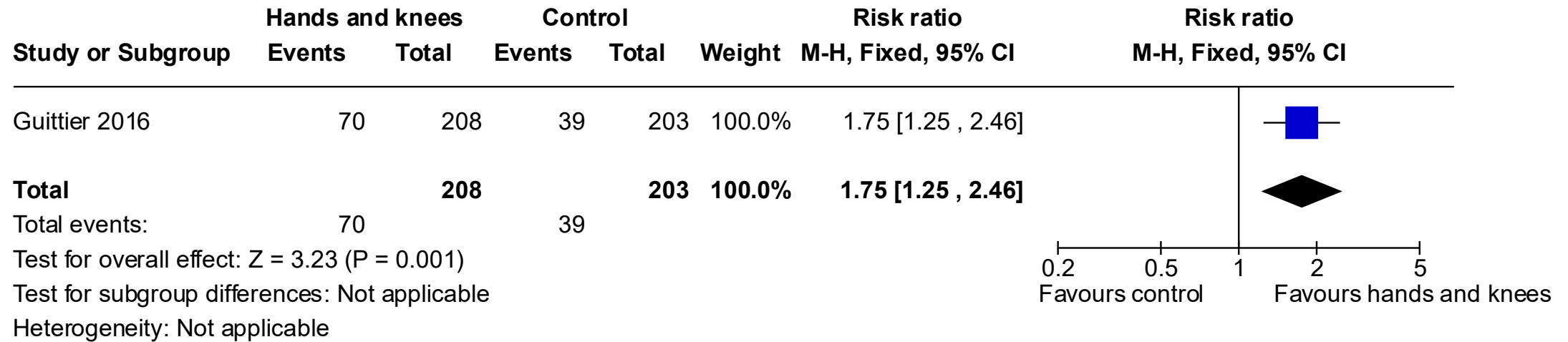
エビデンスの確実性：中

# Ⅲ度/Ⅳ度会陰裂傷



エビデンスの確実性：中

# 母体姿勢の快適さ



エビデンスの確実性：低

# 腰痛

3つの研究が腰痛のアウトカムを報告しているが、  
尺度や評価のタイミングが3つの研究で異なる

→2件の研究で四つ這い姿勢による疼痛軽減の可能性が示唆

# ～益と害のバランス～

益

短期の回旋  
分娩時間の短縮  
コストなし

害

生後5分のアプガースコア<7点  
帝王切開・鉗子/吸引分娩  
Ⅲ度/Ⅳ度会陰裂傷  
→いずれも有意差なし



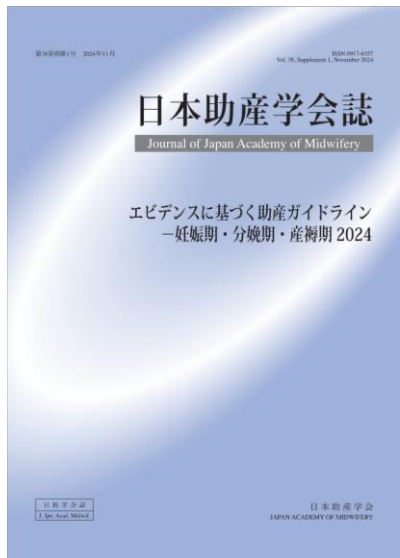
「選択的ケア」として提案可能

# ステートメント（推奨文）

分娩期に胎児が後方後頭位になった場合、胎児のwell-beingに問題がなければ四つ這いを行うことを提案する。

推奨の強さ：弱い

エビデンスの確実性（強さ）：弱い



エビデンスに基づく助産ガイドライン—妊娠期・分娩期・産褥期2024 より

# 臨床での活用

- ✓ 実施時は回旋改善の可能性を説明する。
- ✓ 産婦さんの価値観と希望に基づいて実施を検討する。
- ✓ 枕・クッション等で快適性を確保する。
- ✓ 実施中も胎児心拍モニタリング等でwell-being確認、確認できない場合は姿勢変更と理由の説明を。